

令和6（2024）年度

地域学校協働活動推進員養成研修③ 実施報告

実施日：令和6（2024）年8月29日（木）

本研修は、地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施しています。

第3回は、受講者が自身のコーディネーションや活動を振り返りながら、地域学校協働活動推進員として必要となる「ボランティア・マネジメント」について理解を深めることをねらいとして研修を行いました。

講話・演習

「協働活動を支えるためのつながりづくり

～コーディネートの手法を学ぼう～

コミュニティ・スクール推進員・CSマイスター

四柳 千夏子 氏

四柳氏は、三鷹市内小・中学校のPTA役員をきっかけに、子どもたちや学校に関わるようになり、平成16年には放課後の居場所づくり活動（三鷹市地域子どもクラブ）を立ち上げ、初代地域コーディネーターや青少年健全育成活動など、三鷹をフィールドに活動していらっしゃいます。また、平成25年からは、文部科学省CSマイスターとして全国のコミュニティ・スクールの導入にあたっての学校運営協議会研修、地域学校協働活動推進員研修なども担当されています。

一日を通しての講話・演習でしたが、自らの御経験も交えながらお話いただき、受講者にとって分かりやすい内容でした。



午前は、四柳氏からの講話を中心に研修を進めました。

最初に、コーディネーターの役割について確認しました。「つながりの重要性」について触れ、コーディネーターの必要性について確認しました。その上で、学校への支援から協働にしていくために「学校を知ること」「目的を共有すること」などが必要であることを、御自身の経験を基に説明されました。そして、ボランティアをしたいという人たちの思いを、学校側からの要望と上手につなぐこと、すなわちニーズ（要望）とシーズ（地域資源）のマッチングがコーディネーターの役割であるとまとめました。

午後は、本研修の修了者で今年度も研修を受講してくださっている方や、今年度の新規受講者でコーディネートの経験がある方から、自らが携わっているボランティアコーディネートについて御発表いただきました。それを基に、受講者から質問を受け付けたり、四柳氏により深掘りしたりしながら、学びを深めていきました。

受講者は、地域学校協働活動推進員として活動するためのボランティア・マネジメントやコーディネートの在り方について理解を深め、今後の活動に活かすヒントを得ることができたようです。





【受講者の感想から】

- コーディネーターとして取り組んでいることについて伺うことができ、参考になった。
- 人と人のつながりを大切に、地域のため、子どもたちのために何ができるかを考え、学び、役立てるように努力したい。
- 学校と地域の架け橋としての役割の重要性を感じた。
- 地元、自分をよく見つめ、地域の状況と自分の経験に合わせて、できることから進めていきたい。
- 地域の特色を生かした活動を通して、子どもたちが体験できる機会を考えていきたい。
- 学校との対話の重要性を実感し、今後コミュニケーションを図ることを心掛けていきたい。



研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp